

ほろちん

34! あの世



大崎短歌会

兼題『かぼちゃ・自由』

秋空の青より青き志布志港

黒船一隻係留の見ゆ

彼岸入り園の片隅莖立ちの

鮮やかな花仏の使者かな

「この次は美味しかったか教えて」と

書きて吊したるカボチャの柵に

清秋の天に輝く星見つ

畑野に集く鈴虫の声きく

真夏日に試しに植えしカボチャ苗

彼岸に三個大小収穫

富士山頂九十九の母とその子息

神の御加護に輝きわたる

彼岸過ぎかぼちゃ貰いてコロツケに

孫笑み想い二十個丸め

本後淑子

川崎健一

山下海征

実吉安仁

穂園芳江

上南紀子

栢山重子

友よりのカボチャスープに舌鼓

夏の恵みをひとと感じて

絵手紙の主人公に馳走にと

夏越ゆ南瓜荒くれ肌の

薩摩郷句

兼題『涙』

井元かず子

馬場みさ

涙しつ 夫婦で喜くだ ノーベル賞

(唱) 立派な夫婦い 日本中が沸つ

二見愚楽満

半世紀 涙で暮れた 拉致家族

(唱) 何言う酷か 話じやろかい

満石うらら

叱い過ぎた 寝た子ん枕れ 濡れた跡

(唱) ごめんねち父 少す後悔い

井上三ちゃん

住ん慣れた 島を後ちすい 涙舟

(唱) 行つても送いも 別れは辛ろし

藤元鬼瓦

代議士な 汗と涙あ 届かせじ

(唱) 偶な田んぼい 連れつ行こかい

遠矢耐多

偏屈も 娘の晴れ姿で 涙しつ

(唱) 我が娘は可愛ぜ態 やっぱい親じや

佐藤ぼつけちゃん

将来の夢 呑んだ涙を 発条いしつ

(唱) 辛い日もあつた 今じゃ良か薬

上村牛歩

小め抵抗 ぐっとん言わじ 目い涙

(唱) 泣つたら泣けよ 気の強い奴じや

諸木小春

凄ぜ事 涙で暮れた 台風跡

(唱) 屋根も吹つ飛つ 直接き雨が降つ

西ノ園ひらり

涙無し 語いもならん 特攻隊

(唱) こいが戦争か 酷で事ちゆさせつ

上窪小絵

久しかぶい 行合た同志の 顔れ涙

(唱) 長降りいじやなあ 元気じやつたな

長重リリー

最下位の息子い 涙を零びつ 頑張れ言つ

(唱) 親へ似たとじやろ ごめんよ気張れ

北村虎王